

ボナンザ Bohnanza

Uwe Rosenberg作

3~5人用 12歳以上 所要時間約45分

各プレイヤーは自分の畑で栽培した豆を商品として、できる限り多くの収入になるように売ります。一つの畑で同じ種類の豆がたくさん収穫されればされるほど、その豆を売ったときの収入も多くなります。しかしながら残念なことに、プレイヤーはしばしば、豆の種類が多くなりすぎて、安値で売りさばかなければならない状況に追い込まれてしまうこともあります。時には、収益が全くないこともあり得るでしょう。ゲームの目的は、豆の取引を通じてもっとも多くのターラー(訳注:このゲームでの通貨です)を稼ぐことにあります。

用具

- 豆カード 104枚
- 「3つ目の豆畑」カード 6枚
- ルールブック 1

豆カード



豆カードには8つの種類があります。種類ごとに枚数が異なります。その種類のカードが全部で何枚のカードがあるかは、それぞれの豆カードに書いてある数字で示されています。

- Blaue Bohnen(青豆)-----20
- Feuerbohnen(紅花インゲン)---18
- Saubohnen(そらまめ)-----16
- Brechbohnen(いんげん豆)-----14
- Sojabohnen(大豆)-----12
- Augenbohnen(ささげ)-----10
- Rote Bohnen(赤豆)-----8
- Gartenbohnen(ゴガツササゲ)----6

全ての豆カードの下側には、豆価格表が書かれています。豆価格表は、プレイヤーが豆を売却したときに、何ターラー獲得するかが示されています。そこに書かれている数値は、1~4ターラー(例外: Gartenbohnenは1~2ターラー)獲得するためには、何枚同じ種類の豆カードが豆畑になければならないかを示しています。プレイヤーが4豆ターラー獲得するために必要な枚数以上の豆カードを集めても、意味はありません。



例1: 左図の豆カードは3または4枚をは売り出すことにより1豆ターラーとなり、5もしくは6枚なら2豆ターラーとなり、7枚の場合は3豆ターラーとなり、8枚では4豆ターラーとなります。

ます。

豆ターラー

豆カードを裏向きにしておくことによって、獲得した豆ターラーを示します。カードの裏側におは、1豆ターラーに相当するコインが描かれています。



豆畑

- ゲームの開始時には、各プレイヤーは自分の前に2つまで、それぞれ決まった種類の豆カードをプレイする列を持っています。これらの列のことを、豆畑と呼ぶことにします。
- 各プレイヤーは、ゲーム中に1回限り3つ目の豆畑を購入することができます。これを持てば、その後ゲーム終了まで3つの豆畑を持つことができます。

- 3つ目の豆畑の価格は3豆ターラーであり、これは獲得した豆ターラーを裏返して捨てることによって支払います。
- 「3つ目の豆畑」カードを取り、自分の前に他のプレイヤーによく見えるように置いておきます。

注: 「3つ目の豆畑」カードは全部で6入っています。このうち一枚は決して使用されないの、別にしておいてください。豆畑カードをなくしたときの予備として、使用してください。

準備

- 5枚の「3つ目の豆畑」カードは、さしあたって箱の中に入れておいてください。
- 豆カードはよく混ぜて、各プレイヤーに一枚ずつ配ります。各プレイヤー、5枚ずつカードを持ちます。

特に注意:

プレイヤーの手札のカードの順序は、ゲームを通じていかなる時であっても変えてはなりません。他のカードゲームで行うようなカードの並び替えは許されていないのです。

このことにより、配られるカードは以下のように取り扱ってください。

カードを配る人が配った順に、手札として持たなければなりません。新たに手札となるカードは、自分の手札の列の一番最後に入れます。

- 残りのカードはコインの描いてあるほうを上(すなわち裏向き)にして、テーブル中央に置き、これを山札とすることにします。
- カードを配った人の左隣からプレイを開始します。

進行

手番のプレイヤーは以下の順序で4つの行動を行わなければなりません。

行動1: 豆カードをプレイする

手札の最初のカード(すなわち、一番手前にあるカード)を、自分の前にある豆畑のいずれかにプレイ(カードを表にして出す)しなければなりません。(例外: 手札が一枚もない場合、この行動は行われません。直ちに行動2に移ります。)つまり、新たに豆の列をはじめるか、すでにある同じ種類の豆の列につなげるかするのです。

- そのあとで、このプレイヤーは次のカード(すなわち、今一番手前にあるカード)を自分のいずれかの豆畑にプレイすることができます(義務ではありません)。
- プレイヤーは、常に一つの豆畑には一種類の豆しかプレイすることはできません。
- ゲーム中しばしば、自分の豆畑にプレイすることができない種類の豆をプレイしなければならない場合が発生します。この場合には、豆畑の豆を売ることによって、豆をプレイするための畑を作らなければなりません。

補足: ゲームの最初には、もちろん自分の豆畑には、何もありません(自分の前には、表にしたカードが並べられていません)。しかし、架空の畑が2つあります。この1つにまず手札の1番手前のカードを置きます。そのあとで、その時点で手札の1番手前のカードを自分の畑に置くことができます。はじめに置いたカードと同じなら、この2枚を並べて、違うなら2列に別けて置きます。その後の手番の最初には、すでに並べられたのと同じカードなら、そこに続けて置けます。並んでいないカードは、空いている畑に置くか、畑を空けて置くかします。

豆を売る

豆を売りたい、もしくは売らなければならないプレイヤーは、どの豆を売るか選択します。そして、その畑にある豆カードの数と、その豆カードに示された豆価格表を比較します。豆ターラーにならない分の豆カードは豆の書かれた面を表にして山札の横に捨てます。



例2：3つのBrechbohnenは1豆ターラーになります。プレイヤーは、3枚のBrechbohnenカードのうち一枚を裏返し、獲得した豆ターラーとして持っておきます。残りの2枚のBrechbohnenカードは表向きのまま捨てます。捨てたカードは、分かりやすいように山札の横にまとめて置いてください。プレイヤーが獲得した豆ターラーを示すカードは、それ以外のカードと混ざらないように分けておきます。

注意：1枚のカードしか置かれていない畑の豆を売ることはできません。

例外：プレイヤーの全ての畑に一枚だけ豆が置かれている場合には、捨て札とするカードをプレイヤーが自由に選ぶことができます。このカードは1ターラーにもなりません。

行動2：交換と贈与

- ・手番プレイヤーは山札から2枚のカードをめぐり、全員に見えるようにテーブルの上に表向きにして置きます。
- ・手番プレイヤーはこれらのカードをそのまま確保することもできます。しかし、この場合、3番目の行動で、これらの豆カードを必ず自分の畑に置かなければ

ならないこととなります。また、これらのカードを他のプレイヤーとの交換材料とすることもできます。

例3：めくられたカードはSojabohne と Gartenbohne でした。このプレイヤーは、自分の畑にRoten Bohnen とAugenbohnen を植えていましたので、これらのカードは不要でした。そこで彼は、他のプレイヤーに尋ねます。「誰か、この豆がほしい人はいないか？できればこのSohabohne とRote Bohne とを交換してほしいのだけれども。」

- ・加えて、任意の位置にある手札のカードも交換に出すこともできます。

例4：さらに続けて「よし、ではこのめくったGartenbohne に手札のBlaue Bohne をつけて、Rote Bohne と交換してくれないか。」

- ・手番以外のプレイヤーは、自分の手札のみが交換材料となります。
- ・一枚のカードに対して複数のカードを提案したり、また要求したりして構いません。
- ・全てのプレイヤーは、手番プレイヤーに対してのみ、交換を行うことができます。手番プレイヤーが関与しない交換は許されないのです。

注意：交換に際して、手札の順番を変えてはならないのはもちろんです。しかし、プレイヤーは手札のどの位置にあるカードでも、交換材料とすることができます。交換するカードは手札のどの位置のものでもよく、交換が決まった時点で、手札から抜きます。提案するときには抜いてはいけません。

- ・交換したカードは畑に置いてあるカードとは区別して、プレイヤーの前に置いておきます。これらのカードは、手札の中に入れるのではありませんし、また、再び交換に使うこともできません。誰も交換しなくなったら、この行動は終了します。
- ・交換フェイズ（行動2）を通して、全てのプレイヤーは豆カードを贈与することもできます。手番プレイヤーは、手札と山札からめくったカードを贈与することができます。それ以外のプレイヤーは手札のみ、手番プレイヤーに対して贈与することができます。贈与は、必ずしも受け取らなければならないものではありません。

行動3：豆をまく

- ・ここで、交換で獲得した全ての豆カード（手番プレイヤーだけでなく、他のプレイヤーも交換で得た豆カードがあればそれをすべて）をそれぞれ自分の畑に置きます。
- ・また手番プレイヤーで山札からめくったカードのうち、持っていることにした、もしくは他プレイヤーに渡すことができなかった1枚もしくは2枚のカードも、自分の畑に置かなければなりません。それができない場合には、それらを置くために、まず豆を強制的に売らなければなりません。

行動4：豆カードを引く

- ・手番プレイヤーは一枚ずつ3枚のカードを山札から引いて、手札に加えます。
- ・新たに引いたカードはそれまでのカードの後ろに置きます。カードを引いた順番で手札に加えていかなければなりません。
- ・そのあとで、手番が左隣のプレイヤーに移り、最初から行動を行います。

これら以外の行動

- ・いつでも（他プレイヤーの手番であっても）、自分の畑の豆を売ることができます。
- ・また、3番目の豆畑を買う場合も同じです。
- ・また、プレイヤーはいつでも何らかの約束をすることができます。ただし、必ずしも守らなければならないわけではありません。

終了

- ・山札のカードがなくなる度に表向きになっている捨て札の山のカードをよく混ぜて、新たな山札とします。
- ・3回目の山札がなくなったら、直ちにゲーム終了です。
- ・この時点で、全プレイヤーは自分の畑の豆を売って、豆ターラーに変えることができます。
- ・手札のカードは何の意味も持ちません。
- ・もっとも多くの豆ターラーを獲得したプレイヤーが勝者となります。

ヴァリエーション

- ・3人でプレイする場合には、3人とも最初から3つ畑を持ってプレイすることを勧めます。
- ・また4人でプレイする場合には、3番目の豆畑の価格を2ターラーにするとよいでしょう。

ルール問い合わせ先

メビウス ゲームズ

東京都文京区後楽1-1-15梅澤ビル5階

Tel 03-3815-5956 Fax 03-3815-7956

shop@mobiuss-games.co.jp

http://www.mobiuss-games.co.jp/